

種 名 アヤメ  
万葉時代の呼名 かつみ



詠人 中臣女郎

万葉集卷四 六七五

をみまし咲く沢に生ふる花かつみ  
かつても知らぬ恋もするかも

【現代訳】

女郎花が咲く沢に今生い立っている花かつみといえば、かつてない恋の炎に身を焼いているわたし

【アヤメの解説】 アヤメ科アヤメ属の多年草

アヤメは山野の草地に生える(特に湿地を好むことはない)。葉は直立し高さ40~60cm程度。花は5月ごろに径8cmほどの紫色の1-3個付ける。外花被片(前面に垂れ下がった花びら)には網目模様があるのが特徴で、本種の和名のもとになる。

なお、「いずれがアヤメかカキツバタ」という慣用句がある。どれも素晴らしく優劣は付け難いという意味であるが、見分けが付きがたいという意味にも用いられる。